

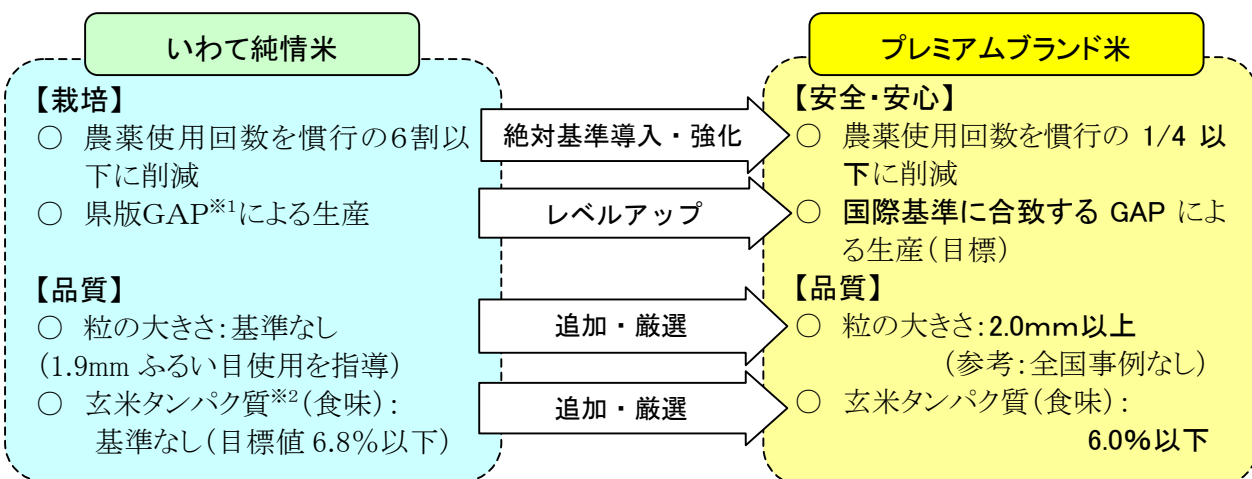
環境共生産地 i n f o ネット

プレミアムブランド米への挑戦！

本年度も本格的な農業シーズンを迎え、県内各地で、環境と共生する産地づくりの取組が行われています。今回は、今年で3年目を迎える『プレミアムブランド米』生産の取組を紹介します。

『プレミアムブランド米』は、環境と共生しながら安全で安心な生産を極め、さらに美味しさにもこだわった、特別な「いわて純情米」です。JA全農いわてと県では、「いわて純情米」を全国有数のブランド米に育てるための看板商品として、その生産を進めています。

雑草や病害虫対策など技術的に難しく、また品質基準も厳しいため、その栽培面積は合計1.6ヘクタールと限られています。生育が順調に進んでも、その収穫量は約8トン（「いわて純情米」（特別栽培米と純情限定米）の出荷量は約15万トン）で、まさに「プレミアム」なお米です。



※1 G A P (農業生産工程管理) : 生産物の安全確保や環境保全などのため、農作業を計画、記録、点検、改善する取組です。

※2 玄米タンパク質 : お米の美味しさの指標で含有量が低いほど食味が良いとされます。

今年、プレミアムブランド米の生産に挑戦しているのは、一関市花泉町の(有)ドリファー花泉(社長 阿部信夫さん)と奥州市江刺区の高橋貞信さん(JA江刺稲作部会長)。

今のところ雑草や初期害虫の発生は少なく生育は順調。今後は、除草管理を徹底して斑点米カメムシを発生させないことが成功のカギとなりますが、お二方とも秋の収穫に自信をのぞかせていました。

この人たちが挑戦しています！



一関市花泉町：(有)ドリファー花泉 阿部信夫さん



奥州市江刺区：高橋貞信さん (JA江刺稲作部会長)